

2013年4月15日発売(毎月2回1日・15日発行) 第17巻8号(通巻325号)
1997年2月10日第3種郵便物認可

pen

with New Attitude

5/1
2015 No.555
定価 600
yen

決定版
いま欲しいのは、
美しい
自転車。



兄弟

評論士

Filippo Fraschini

フィリッポ・フラスキーニ

●イタリアでは有名な自転車と言えば、みな口を揃えて「ピアンキ」と言う。だが、フィリッポさんにとっては「チネリ」。次の愛車は最新モデルの「ハイブリッド」と決めている。現在、通勤で使っている「SAB」もイタリアの伝統的なブランドの1台。美しいフレームデザインでカーボン素材ゆえ、軽くて街中を走ってもストレスがないそうだ。この1台を購入してからは移動は自転車に。クルマはガレージに眠ったままだ。



不動産
経営

Roberto Orlandinotti

ロベルト・オルランドイノッティ

●不動産業を営むロベルトさんが子どもを乗せて街を走るために購入したのが「ロシニョーリ」。ミラネーゼ産の高級自転車ブランドだ。盗難が多いミラノにおいて、街乗り自転車は乗りやすく、気を使わないモノが基本。だが彼はそこに異議をとなえる。「子どもを乗せるならこれが一番。モーターつきが流行しているけど、子どもにとって、父と乗った自転車は、一生の思い出になる。だからあえてこれを選んだのさ」

Francesco Fraschini

フランチェスコ・フラスキーニ

●「僕は断然ピアンキ派だね。フィリッポさん(兄)の弟であるフランチェスコさんは、兄のインタビューを聞いてこう断言した。オンオフともに自転車を使う彼は、ピアンキの美点を「軽さ、安定感、ブランド性」だと解析する。いまの愛車のピアンキはハンドルやサドルを改造して乗っている。「兄がチネリなら、僕はパーシュレイを買おうかな」。フィリッポさんとフランチェスコさんのライバル関係は、しばらく続きそうだ。



Claudio Luccardini

クラウディオ・ルッカルディーニ

●自転車歴30年の大ベテランのクラウディオさんは、ロードレースに始まり、トラックレース。そして現在没頭中のMTBと、あらゆる自転車競技に出場した経験あり。いまも国際競技に参加する。愛車のKTMは、幾何学的なデザインが魅力だという。二輪のように華やかなウィリーを簡単にキメて見せた。週末には、自転車友達と郊外まで足を運び競技のトレーニングを欠かさないという。